

# 「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。紙版次号向けには  
3月上旬までに情報をお寄せください。

掲載料は無料です。

3 MAR 「津波避難ビル」探検ツアー **3月5日(日)**  
9:15▶11:30  
無料 要申込

(※別途、往復の市営バス代がかかります)  
場所 せんだい 3.11 メモリアル交流館集合 定員 15名 (先着)  
主催者 せんだい 3.11 メモリアル交流館 問合せ TEL 022-390-9022

3.11 げんば探訪 第4回「花と緑の力で、人とつながり希望を紡ぐ、雄勝ローズファクトリーガーデン」 **3月5日(日)**  
13:30▶14:30  
無料 申込不要  
講師 徳水博志氏 (一般社団法人雄勝花物語共同代表)  
場所 みやぎ東日本大震災津波伝承館 (石巻市) 多目的スペース ※ YouTubu 配信もあり  
主催者 宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課、東北大学災害科学国際研究所 問合せ TEL 022-752-2140

れきはく講座 第6回「考古学からみた津波災害の課題と展望」 **3月11日(土)**  
13:30▶15:00  
無料 要申込  
講師 相原淳一氏 (東北歴史博物館学芸職員)  
場所 東北歴史博物館 3階講堂 定員 145名  
主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

考古学講座—旧石器時代を探る—第2回「ヨルダンの旧石器遺跡に探るホモ・サピエンス繁栄の謎」(オンライン併用) **3月12日(日)**  
13:30▶15:00  
無料 要申込  
講師 門脇誠二氏 (名古屋大学博物館教授) ※入館料が必要 申込締切 2月26日(日)  
場所 地底の森ミュージアム研修室 定員 会場:40名 オンライン:80名  
主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153

宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 公開講演会「悲しみへの寄り添いと癒し～音楽の恵み」 **3月12日(日)**  
14:30▶16:30  
無料 要申込  
講師 キャロル・サクク氏 (音楽サナトロジスト)・大内典氏 (宮城学院女子大学教授)  
場所 仙台市福祉プラザ1階プラザホール 定員 120名  
主催者 宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所 問合せ TEL 022-277-6210

なとりまなびフェスティバル'22後編 講演「子どもたちのために～10年先の健康と今日からの運動～」他 **3月18日(土)**  
12:00▶16:30  
無料 要申込  
講師 佐藤弘道氏 (ひろみちお兄さん) 他  
場所 名取市文化会館大ホール、ホワイエ 大ホール入場は要整理券 (2月1日から市内公民館・図書館等で配布)  
主催者 名取市生涯学習推進本部 問合せ TEL 022-724-7173

れきはく講座 第7回「縄文時代のマグロ漁」 **3月18日(土)**  
13:30▶15:00  
無料 要申込  
講師 山田凜太郎氏 (東北歴史博物館学芸職員)  
場所 東北歴史博物館 3階講堂 定員 145名  
主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

写真展 仙台コレクション関連イベント: トークイベント 仙台偽コレクション—ありえた風景、ありえなかった風景— **3月19日(日)**  
13:30▶15:00  
有料 要申込  
講師 佐藤信夫氏 (地域史研究者)  
場所 仙台文学館 定員 60名  
主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

禅をきく会「釈尊と仏弟子—初期仏典の物語—」(オンライン配信) **3月20日(月)～5月20日(土)**  
無料 申込不要  
講師 千葉公慈氏 (東北福祉大学学長)  
場所 オンライン配信 (YouTube)  
主催者 曹洞宗東北管区教化センター 問合せ TEL 022-218-1381

せんだい文学塾 3月講座 **3月25日(土)**  
16:00▶18:00  
有料 要申込  
講師 佐伯一麦氏 (仙台文学館館長)  
場所 仙台文学館 定員 60名  
主催者 せんだい文学塾 問合せ sendaibungakujuku@gmail.com

## 第60回 名著への旅

### 『南相馬メドレー』

柳 美里 著  
第三文明社

(2020年3月11日 初版発行)

2012年3月から「南相馬ひばりエフエム」でパーソナリティを務めていた、芥川賞作家の柳美里さんは2015年に南相馬市へ移り住み、地元の人々の声と言葉を届けていました。南相馬市小高区で、原発事故による避難指示が5年ぶりに解除された後、地元の高校生たちが電車を待つ間過ごせる場所として、本屋を開くことを決意し、紆余曲折を経て2018年に自作から命名した本屋「フルハウス」をオープンします。敷地内には劇場も併設されていて、長らく休止していた演劇活動も再開します。

その年、私自身も何度か常磐線を乗り継いで、開店記念トークイベントに参加し、初めて小高の地を踏みました。行き帰りの車窓から見た美しい風景が忘れられません。「フルハウス」の本棚には、柳さんの友人作家達が選書した本が並び、眺めているだけで幸せな気持ちになりました。と同時に、同じ東北に暮らしながら、あそこまで震災と向き合ってきたらどうかと自問してしまいます。

メドレーとは、間にナレーションなどを入れずにいくつかの曲を続けて演奏することと、「はじめに」にあります。このエッセイはまさに、震災後、南相馬市の人々の言葉や想いに耳を澄まし、懸命に言葉を紡ぎ、人々が集う場を作り、表現活動を生み出し続ける一人の女性の数年間の記録であり、奮闘記です。

その後、「フルハウス」はブックカフェとしてリニューアルされ、また「JR上野駅公園口」で全米図書賞(翻訳文学部門)受賞と、柳さんの「メドレー」はこれからも続いていきます。(庄)

## あなたの「学び」や「文化」をカタチに

これまで学んだことや調査してきたことを冊子にまとめてみたい、短歌・俳句・書画・写真など自分の作品を本にしてみたい、とお考えになったことはありませんか？

「まなびのめ」を発行している笹氣出版印刷は、学術関係の書籍・論集はもとより、一般の方の「自分の本」づくりでも、これまで多くのお役立ちをさせていただいてきました。

どうまとめたらいいのかわからない、希望の装丁でつくれるのか、などなど、どんなことでもまずはお気軽にご相談ください。

笹氣出版印刷株式会社  
☎022-288-5555 ✉sasaki@sasappa.co.jp

## 学びの庭におじゃまします

次号 テーマ: 「学ぶ」

2023年4月5日発行予定

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号  
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部  
FAX 022-288-5551  
TEL 022-288-5555  
(FAXは24時間受付 電話受付時間 10:00～16:00 土・日・祝日除く)  
✉ manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第59号/発行日2023年1月5日  
企画・編集 「まなびのめ」編集部/発行 笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」編集部 川又進 菅野麻実 庄司真希  
オブザーバー: 笹氣義幸 寺田征也 (明星大学) 協力: 株式会社市瀬 有限会社阿部正志製本

© 笹氣出版印刷株式会社 無断で複写、複製、転載することを禁じます。  
この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC® 認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。



ご自由にお持ち帰りください。

TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付  
クイズあります  
詳しくは中面へ

# まなびのめ

学術の世界と市民をつなぐ情報誌

季刊誌 第59号  
2023. 1

## 学びの庭におじゃまします シリーズ「東日本大震災」[12] —復興と経済—

### 被災地に立ち上がる企業家精神

福嶋 路 先生  
東北大学大学院 経済学研究科 教授  
(経営学・地域企業論)

### 被災地発の新しい観光ビジネス

宮原 育子 先生  
宮城学院女子大学 現代ビジネス学部 教授  
宮城大学名誉教授・宮城学院女子大学名誉教授  
(地理学・観光学)

- これからの主な「学び」イベント 39件 掲載!
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『南相馬メドレー』 (柳美里)
- Voice Park

Web版 随時更新中! まなびのめ

http://manabinome.com/

発行 / 笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、主催者である各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

定期開催 トワイライトサロン「土佐誠の宇宙が身近になる話」 **毎週土曜日**  
17:00▶17:45  
無料 申込不要  
講師 土佐誠氏 (仙台市天文台名誉台長)  
場所 仙台市天文台オープンスペース  
主催者 仙台市天文台 問合せ TEL 022-391-1300

開催中 小企画展「昆虫標本展 ～蝶の暮らしを探る高橋雄一コレクション～」 **～1月25日(水)**  
9:00▶16:45  
無料 申込不要  
休館: 月曜、祝日の翌日  
場所 スリーエム仙台市科学館  
主催者 スリーエム仙台市科学館 問合せ TEL 022-276-2201

ミニ企画展「東北の縄文遺跡—仙台市伊古田遺跡の土偶とその世界—」 **～2月12日(日)**  
9:00▶16:45  
有料 申込不要  
休館: 月曜、祝日の翌日  
場所 仙台市縄文の森広場展示室企画展コーナー (入館は 16:15 まで)  
主催者 仙台市縄文の森広場 問合せ TEL 022-307-5665

宮城県公文書館企画展 宮城県誕生 150周年関連企画「あの日 あのと看 この宮城」 **～2月26日(日)**  
9:00▶17:00  
無料 申込不要  
休館: 宮城県図書館の休館日  
場所 宮城県図書館 2階 展示室  
主催者 宮城県公文書館 問合せ TEL 022-341-3231

東日本大震災文庫ミニ展示「故郷を離れる—広域避難・長期避難—」 **～2月28日(火)**  
9:00▶19:00  
無料 申込不要  
休館: 月曜、月曜が祝日の場合その翌日  
場所 宮城県図書館 3階 東日本大震災文庫 (日・祝は 17:00 まで)  
主催者 宮城県図書館 (震災文庫整備班) 問合せ TEL 022-377-8498

企画展「私がここで暮らしていくための科学～「黒い壁」の正体」 **～3月14日(火)**  
10:00▶17:00  
無料 申込不要  
毎週月曜 (祝日の場合はその翌日) 休館  
場所 せんだい 3.11 メモリアル交流館 2階展示室  
主催者 せんだい 3.11 メモリアル交流館 問合せ TEL 022-390-9022

企画展「優しき日々 歌人阿佐緒の過ごした日常」 **～3月31日(金)**  
9:00▶16:00  
有料 申込不要  
休館: 月曜、祝日の翌日  
場所 原阿佐緒記念館  
主催者 原阿佐緒記念館 問合せ TEL 022-346-2925

企画展「人力車から地下鉄へ～新しい時代の乗り物～」 **～4月16日(日)**  
9:00▶16:45  
有料 申込不要  
休館: 月曜・休日の翌日・第4木曜  
場所 仙台市歴史民俗資料館 (入館は 16:15 まで)  
主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956

1 JAN 第102回企画展「遺跡のミ・カ・タ」 **1月5日(木)～2月26日(日)**  
9:00▶16:45  
有料 申込不要  
休館: 月曜、祝日の翌日、祝日以外の第4木曜  
場所 地底の森ミュージアム 企画展示室 (入館は 16:15 まで)  
主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153

# 被災地に立ち上がる企業家精神

## 「企業家精神」と大災害

私の専門は経営学で、地域の企業活動を中心に研究してきました。株式会社はもちろん企業の代表例です。しかし企業とは本来、事業を企てて計画的・継続的に活動する組織のことで、広い意味ではNPO（非営利組織）なども含まれます。

目的が利潤であれ社会課題の解決であれ、それを達成するためには人を組織したり、計画を立てて活動を継続させたり、必要に応じて資金を獲得したりしなければなりません。目の前の活動に力を入れながらも広い視野を保ち、短期的な課題に取り組みながらも中長期的な展望を描ける人材が必要です。とりわけ現代では、このような人材が広く強く求められています。

東日本大震災の後、被災地では、生業を失った方々に仕事を作ろうと、地域性を活かした商品の開発・販売に取り組み、それが会社に発展したケースが多数見られました。被災者支援で始めた仕事作りは、結果的に地域からの人口流出を食い止める役割を果たしましたし、そこで作られた商品・サービスは、その地の名物・名産となって地域経済に貢献したり、納税という形で自治体を支えたりした事例もあります。産地の訪問や限定商品の購入を目標に域外から人が訪れば、交通や宿泊などにも好影響が及びますし、地域のファンになった人の移住に結びつく可能性もあります。災害は本当に悲しい出来事ですが、こうした意味では企業家精神が立ち上がり、発揮される機会にもなり得るのです。

大災害の後に企業家が生まれるというのは、歴史が証明しています。例えば死者・行方不明者が10万人以上に及んだ1923年の関東大震災の後にも、後に日本を代表する企業が数多く産声を上げました。また2005年にハリケーン・カトリー

ナに襲われた米国のニューオーリンズは、その後の復興過程で「起業家の街」と呼ばれるまでになっています。

東日本大震災の発生後も、岩手・宮城・福島での「開業率」が大きく上昇しました。開業率とは、総企業数に対する新設された企業数の割合です。被災したりそれまでの仕事を失ったりした方が、新たな事業を起こしたり、一方で、域外から来た人たちも数多く起業しました。支援活動で被災地に入り、悲惨な状況を目の当たりにしたことによって、人の企業家精神が呼び覚まされたり、最初から起業の機会を求めて来る人もいたり、本当にその経緯は様々です。

地元の人と域外の人との情報やアイデアが交わって、新しい事業が生まれることも起こりました。被災地で出会った域外の人同士が交流することで、人脈が広がり資金を得られた例もありました。震災後に起きたこうした事例は、今でも被災地域の活性化に有益なヒントを与えてくれるはずですよ。

ボランティアがきっかけで移住して来たり、被災者の仕事を手伝っているうちにそれが本業になったりした人には、若者と女性が多いという特徴があります。大きな災害を経験したことで自分の生き方や将来を見つめ直し、被災地での起業に踏み切った人たちです。そのような人の中には、震災から10年以上が過ぎた今も、被災地に根を張って事業を続けている人がおられます。

## 現代社会における「イノベーション」の意味

私は企業の「イノベーション」に着目して研究をしてきました。イノベーションを重視する経営理論は、20世紀前半に活躍した、オーストリア出身の経済学者シュンペーターに始まります。経営学は経済学と混同されることが多いのですが、資本や商品の流れを大きく把握して理論化する経済学に対して、経営学では個々の企業活動の事例研究が欠かせません。私自身は、企業や地域レベルで生じるイノベーション活動に興味を持って研究をしてきました。

イノベーションは、単に技術革新という意味で使われることがあります。しかしその本質は社会に求められる新たな価値の創造であり、技術や商品の革新である以上に、人々の価値観の変革を伴うものなのです。たとえばインターネットの普及やスマートフォンの登場は、私たちの仕事や生活を劇的に変えましたし、社会の在り方にも大きな変化をもたらしました。

現代は人々のニーズや社会課題が速く、大きく変化していま



す。それを的確に把握して応える、新たな商品・サービス・事業を展開するイノベーションを起こさなければ、企業はやがては衰えていってしまうでしょう。

## 東北ならではの価値に目を向ける

私が経済に関心を強めたのは、高校生だった1987年にニューヨーク株式市場が暴落した「ブラックマンデー」からです。当初は法学部の進学を考えていましたが、結局、ダイナミックな社会の動きを扱う経済学のほうが面白いかもと経済学部に進学しました。経済学部に入ってから経営学という学問の存在を知りました。化粧品の商品開発や倒産した企業の事例を学ぶ中で、「人のおいがる」経営学の面白さを知りました。しかし企業の経営や組織を学ぶうちに、「自分自身は組織に向いてない」と確信するようにもなります（笑）。

「研究者の道に進もう」と考え進学した一橋大学では、事例を中心とした実証研究に力を入れておりました。特に1997年に設立された「イノベーション研究センター」では活発に日本企業のイノベーションの実証研究が行われており、野中郁次郎教授をはじめとする先生方が日本企業などを対象に刺激的な研究を多数発表されていました。そこでいろいろ刺激を受け、私もイノベーション研究を行うようになります。東北大学に職を得て仙台に戻った後、大学院の兄弟子でもある権奇哲先生とともに東北大学大学院経済学研究科に設立された「地域イノベーション研究センター」の活動に携わりました。以来、東北の企業ならではの特色を探求しようと、各地に経営者を訪ねてお話をうかがい、事例研究を重ねています。

そうした中、2011年3月11日、大学の5階にある研究室で震災に遭遇しました。揺れはきわめて大きく、最初は本棚から本が飛び出し、次いで棚そのものが倒れて来ました。あわてて机の下に潜って頭を守りましたが、揺れが収まってみると部屋は本海。本をかき分け、内開きのドアをどうにか開けて、やっと屋外に避難しました。

震災の後、地域の復興に貢献しようと、東北大学ではいくつかのプロジェクトが立ち上がりました。経済学研究科は「震災復興研究センター」を発足させ、私は「地域発イノベーション事例調査研究プロジェクト」の担当者になりました。約10社の企業の取り組みを紹介する、『地域発イノベーション』という事例集を、2012年から2016年まで毎年刊行しました。震災復興に限らず、東北の企業のイノベーション活動を集めた本で

**懸賞** 図書カードを  
当てよう！ **まなびのめクイズ** 正解者の中から抽選で3名様に  
図書カード1000円分をプレゼント

**Q.1** イノベーションを重視する理論を提唱したオーストリア出身の経済学者は？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。官原育子先生の記事もご覧ください。

**応募方法** はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。  
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。  
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び【応募締切】2023年3月11日 当日消印有効  
発送に限り利用させていただきます。

すので、ぜひ参考にさせていただきます。

東北は震災以前から、人口減少や高齢化など、日本が直面している課題の「先進地」でした。しかし震災を機に、古い常識や価値観から人々を解放するイノベーションを起こしやすい「先進地」になったとも言えます。

工場を誘致して地域に多くの雇用を生み出したり、企業が上場を果たしたりすることには、もちろん大きな意味があります。しかし私は東北の企業と経営者を研究する中で、そうした数字にはならない価値に目を向けることの大切さを学びました。

東北には、伝統を守りつつイノベーションに挑み続ける企業や、地域との共存共栄を第一に考える経営者が少なくありません。また今は世界的に、環境・人権などの面から企業活動や投資活動に倫理が求められるようになっています。東北に受け継がれてきた自然との共生や、人のつながりを大切に知る知恵は、大きなアピールになるはずですよ。

東北の自然、人、そして可能性に魅せられる人は今も増え続けています。私もその一人です。これからも、研究や教育を通して、地域の方々と共に歩み続けたいと思っています。

(取材＝2022年11月21日)

東北大学川内キャンパス 経済学研究科棟2階 応接室にて)



東北大学大学院 経済学研究科 教授  
専門＝経営学・地域企業論

## 福島 路先生

〈プロフィール〉(ふくしま・みち) 1969年、静岡県生まれ。東北大学経済学部卒業。一橋大学大学院商学研究科博士課程修了。博士(経営学)。1997年、東北大学大学院経済学研究科に助教として着任。2000年から2年間、テキサス大学IC<sup>2</sup>研究所&マコーム・スクール・オブ・ビジネス客員研究員。2012年より現職。日本ベンチャー学会副会長、仙台市中小企業活性化委員会なども務めている。著書に『ハイテク・クラスターの形成とローカル・イノビエーション』(白桃書房)、共著書に『地域発イノベーションI～V』(南北社)など。

学びの庭に  
おじゃまします

被災地の「復興と経済」を考えると、他地域から人々を呼び寄せる「観光ビジネス」は欠かせません。自然地理学から研究の道に入り、研究と実学で観光に携わる宮城学院女子大学・宮原育子先生に震災からの復興、そしてコロナ禍をのりこえていく東北の観光事業についてお聴きました。

# 被災地発の新しい観光ビジネス

## 東北で見つけた新しい観光のかたち

専門学校を卒業後、旅行会社で11年の勤務を経て、大学に社会人入学しました。専攻は自然地理学です。その後大学院を修了し、宮城大学が開学した1997年、事業構想学部にて講師として着任しました。東京から仙台に移り、旅行を仕事にしていた経験から、観光業を中心に地域活性化の研究に取り組んでいます。

夫とともに東北を回った中で、山形県高島町には二人とも特に魅了されました。ワインや温泉などの観光資源ももちろんですが、何よりも人が素晴らしかったのです。観光客をもてなす宿やお店の方々だけでなく、町の誰もが気さくに話しかけてくださり、地域の楽しみ方を教えてくださいました。

それがうれしくて何度も足を運ぶうちに「空き家があるから、借りて畑でもやってみようか」と言われてそれに従い、「ちょうどいい土地があるから、いっそ住みなさい」と言われてその気になり、まんまと高島町に移住してしまいました(笑)。地域の婦人会では最年少。集まりでは幹事を任せられ、たくさんの方を教えていただきながら楽しく暮らしています。

こうした経験から、私の観光業に対する視野は大きく広がりました。特別な観光資源がなくても、地域の姿勢しだいでは、熱心なファンやリピーターを獲得することができるのです。



宮城学院女子大学 現代ビジネス学部 教授  
宮城大学名誉教授・宮城学院女子大学名誉教授  
専門=地理学・観光学

## 宮原 育子先生

〈プロフィール〉(みやはら・いくこ) 1954年東京都生まれ。旅行会社勤務の後、明治大学二部文学部卒業。東京学芸大学大学院 教育学研究科 修士課程修了。東京大学大学院 理学系研究科 博士課程修了。博士(理学)。1997年、宮城大学の開学と同時に事業構想学部にて講師として着任。同助教授、教授を経て、2016年、宮城学院女子大学 現代ビジネス学部の開設と同時に教授として着任し、初代学部長を4年間務める。著書に「東北大学大学院経済学研究科 地域産業復興研究プロジェクト編『東日本大震災復興研究』～Ⅵ』(共著)など。

2002年にはゼミの学生たちとともに、鳴子温泉郷の活性化を手がけました。鳴子は泉質の種類も湯量も、国内屈指の豊かさです。しかし当時は他の温泉地と同様、団体旅行から個人旅行へという時代の変化に対応しきれていませんでした。

JR東日本の温泉地キャンペーンの対象に、鳴子を選ばれたことがきっかけでした。ちょうど、観光客を送り出す側が仕切る「発地型旅行」に対して、受け入れる地域の側がアイデアを出す「着地型旅行」の魅力が知られ始めた時期です。学生たちは何度も鳴子に通って事業者の方々から聞き取りを行い、率直に意見を交わしました。そして、「街を歩けば下駄も鳴子」をキャッチフレーズとする企画の実現にこぎつけたのです。

湯めぐりマップや貸し下駄、協賛店でサービスが受けられる「下駄手形」などを用意し、温泉街をゆっくり歩いてもらおうという内容でした。泊まった宿だけでなく、他の宿のお湯や、町なかの足湯も楽しめます。伝統を活かしつつ、長時間の滞在を促すこの工夫は、家族連れや若い世代など新たな客層も呼び込んで、大きな成果を上げました。

また、木製の手形の製作には地元の福祉作業所があたるなど、地域の人々を結びつける役割も果たしました。このキャンペーンは、少しずつスタイルを変えながら今も続いています。そしてこうした成功事例で自信を得た若者たちが、卒業後も様々な地域で活躍しているのは、実にうれしいことです。

## 震災から立ち上がった観光地

私は行政関係の委員などをいくつか拝命しています。2011年3月11日の午後も、その一つである仙台観光コンベンション協会(現・仙台観光国際協会)の会議に出席していました。地震が来たのは、会議が終わって間もなく。建物の3階から駆け下りて、あわてて並木のイチョウにしがみつきました。

揺れが収まると、まず県庁と青葉区役所を訪ねました。しかし役所も被災していて、情報を得ようとしてもままなりません。大和町の宮城大学キャンパスに向かって歩く途中、台原の手前で大学行きの路線バスに乗ることができました。その後は学生の安否確認や大学としての支援を検討する日が続きました。

一方で、研究や地域活動でお付き合いがあった沿岸の方々の中には、亡くなられた方もいらっしゃいます。支援活動で被災地には何度か入りましたが、衣食住に困っている状況では、旅行や観光が専門の私がお力になれることは限られていました。しかしやがて復旧・復興へと動き出すにつれて、「交流人口」

を増やすことの大切さが明らかになってきたのです。交流人口とは、その地域に住む「定住人口」に対して、通勤や通学、そして観光で訪れる人々を言います。

沿岸部では多くの方が亡くなり、また他の自治体に避難したままの方も少なくないため、漁業・水産加工業・商業などが大きなダメージを受けました。もちろん観光業もです。しかし全国からボランティアの方々が来たり、地元のお店が集まってテントや仮設で事業を再開したりしたことで、交流人口が増えて活気づき始めました。私も知識や経験を活かしてそうした活動を支援し、また、かさ上げしたり堤防を築いたりした後の土地の活用策を練るなどの形で関わらせていただいています。

そうした中、ボランティアに来た若者たちが、その地を気に入って移住したり、地域の魅力を発信したりする例が出てきました。観光業は、工業のように経済を急成長させ、一度に多くの雇用を生み出すことはできません。しかし日本、特に東北には豊かで多彩な自然があり、歴史の中で人々が築いて来た伝統があり、知恵や工夫を尊ぶ文化があります。地元の人気がついていかなかった魅力を発見し、アイデアを出し合い、思い切って実行してみることができる観光業は、人口減に苦しむ地域を活性化させる可能性に満ちているのです。そしてこうした取り組みに、若者たちはびっぴりでした。

## 地形や地層が国際的な観光資源に

宮城学院女子大学では2016年に現代ビジネス学部が新設され、私は初代の学部長を4年間務めさせていただきました。「女子大でビジネス?」という声もあったようですが、「現代社会における女子としての自分を確立したい」「男子の目を意識することなく伸び伸びと学びたい」という志望者は多く、これまで入学定員を割り込んだことはありません。卒業生たちは新聞社や電力会社などの企業で活躍したり、生まれ育った町で起業家として奮戦したりしています。

「古今東北」という食品ブランドをご存じでしょうか。震災で被災した生産者を支援するため、商品の開発や販路の拡大を目指して、2015年に誕生しました。みやぎ生協などが出資して設立された東北協同事業開発が、現在は約200点の商品を展開しています。そしてこの商品開発には、現代ビジネス学部のゼミ生たちも携わってきました。彼女たちがアイデアを出したりモニターとして試作品を評価したりして、地域の素材を活かした商品が次々と誕生しています。カステラなどのスイーツ

懸賞

図書カードを  
当てよう!

まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に  
図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 震災で被災した生産者支援のため商品開発や販路拡大を目的に誕生した食品ブランドは?

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要で、福嶋路先生の記事もご覧ください。

応募方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。  
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。  
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び【応募締切】2023年3月11日 当日消印有効  
発送に限り利用させていただきます。



が加わったのは、女子大生ならではと言えるでしょう(笑)。

東北の観光業は新型コロナウイルスの感染拡大によって、またも大きな打撃を受けました。実は観光業は宿泊施設や交通機関だけでなく、食材の生産や加工、お酒、リネンなど、地域経済に広く、そして深く関わっていますが、苦しい時ほど、それを乗り越えようとする新しいアイデアや人材も生まれてきます。キャンプなどのアウトドアアツリズム、近隣の観光資源を再認識するマイクロツーリズム、リモートワークと休暇の両方に適した環境でのワーケーション、インターネットで現地の人にガイドしてもらいながら対話も楽しめるオンラインツアーなどがそうです。これらの人気から、旅行や観光が人間の根源的な欲求であることを改めて知ることができます。

私が入力しているのは「ジオパーク」です。大地(ジオ)と公園(パーク)を組み合わせた言葉で、2015年にユネスコ(国連教育科学文化機関)の正式プログラムとなりました。知名度は世界遺産には及びませんが、ジオ(地形や地層)と人の暮らしの関係を伝える活動などへの注目は世界的に高まっています。日本でも、NHKの「プラタモリ」が人気ですよね。私は日本の認定機関である「日本ジオパーク委員会」の副委員長を務めています。ジオパークは東北にもいくつかありますが、地元の方や観光業の方には、もっとアピールしていただきたいです。ジオパークに限らず、自信を持って地域の宝を自慢し、未知の旅行者にも話しかけ、ネットも使いこなして、東北の観光業をさらに盛り上げていきましょう。

震災後、東北では若者や女性が新たな事業に取り組みやすい環境の整備が進みました。地域の皆様には、彼らの挑戦を励まし、一緒に新しい東北をつくっていく支援を心からお願いしたいと思います。

(取材=2022年11月9日)

宮城学院女子大学 講義館5階 図書室・学生会室にて

Web版はより多くの情報を  
随時更新しています。

キーワード検索も  
できます

「まなびのめ」 検索

http://manabinome.com/

1 JAN  
写真展  
仙台コレクション 2001-2022  
1万枚のメッセージ

1月21日(土)～3月21日(火・祝)

9:00▶17:00

無料 申込不要

休館：月曜、祝・休日の翌日、1/26

場所 仙台文学館3階企画展示室 (入館は16:30まで)

主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

「時代の音」レクチャーコンサート・シリーズ  
見え隠れする??オルガンの時代(第2回公演)

1月26日(木)

18:00▶20:00

有料 要申込

講師 鈴木秀美氏・今井奈緒子氏 他

場所 東北学院大学泉キャンパス 礼拝堂

主催者 東北学院大学・河北新報社 問合せ TEL 022-264-6424

れきはく講座 第1回  
「『宗教者になる』ということ  
—武州御嶽山の御師と太々神楽—」

1月28日(土)

13:30▶15:00

無料 要申込

講師 小林直輝氏(東北歴史博物館学芸職員)

場所 東北歴史博物館3階講堂 定員 145名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

市民公開講座  
「東北大学病院の新型コロナウイルス感染症対応」

1月28日(土)

13:30▶16:00

無料 要申込

講師 石井正氏(東北大学病院教授)・高山真氏(東北大学大学院医学系研究科特命教授)

場所 東北大学災害科学国際研究所1階多目的ホール 定員 80名

主催者 東北大学・福島県立医科大学「コングラタ—新型コロナウイルス感染症への対応」 問合せ TEL 022-717-7587

第82回てつがくカフェ  
テーマ「帰る」(オンライン)

1月28日(土)

14:00▶16:00

無料 要申込

申込締切 1月26日(木)

場所 オンライン(zoom) 定員 15名(先着)

主催者 てつがくカフェ@せんだい/せんだいメディアテーク 問合せ sendai.philosophy@gmail.com

2 FEB  
生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良

2月4日(土)～3月26日(日)

9:30▶17:00

有料 申込不要

休館：月曜(祝日の場合は翌日)

場所 宮城県美術館 (発券は16:30まで)

主催者 宮城県美術館、河北新報社 問合せ TEL 022-221-2111

後期基礎講座「吉野作造の文章を読んでみよう」(欧州留学後の吉野作造は第一次世界大戦をどうみていたか)

2月4日(土)

13:00▶15:00

無料 要申込

講師 氏家仁氏(吉野作造記念館館長)

場所 吉野作造記念館

主催者 吉野作造記念館 問合せ TEL 0229-23-7100

れきはく講座 第2回  
「民家の楽しみかた  
—大崎市松山の事例とともに—」

2月4日(土)

13:30▶15:00

無料 要申込

講師 西松秀記氏(東北歴史博物館学芸職員)

場所 東北歴史博物館3階講堂 定員 145名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

3.11 学びなおし塾  
「[Build Back Better] からみた  
東日本大震災被災地の復興」

2月5日(日)

13:30▶14:30

無料 申込不要

講師 村尾修氏(東北大学災害科学国際研究所教授)

場所 みやぎ東日本大震災津波伝承館(石巻市)多目的スペース ※YouTube配信もあり

主催者 宮城県復興・危機管理部復興交流・伝承課、東北大学災害科学国際研究所 問合せ TEL 022-752-2140

市民公開講座 No.563 「仙台湾海岸盛土  
造成地に植栽した広葉樹の現在」  
(オンライン)

2月10日(金)

18:00▶19:15

無料 要申込

講師 佐野哲也氏(東北工業大学環境応用化学科准教授)

場所 オンライン開講(zoom) 申込締切 2月9日(木)

主催者 東北工業大学地域連携センター 問合せ TEL 022-305-3810

参加体験記

# 「学び」イベント参加体験記

「地域未来学」東北地方太平洋洋の地震科学(オンライン)

講師：日野亮太氏(東北大学教授)

主催：東北工業大学

開催日：10月15日(土) 13:30～14:30

東日本大震災から12年目も半年以上が過ぎ、あの日の記憶も薄れがちなの頃です。震災後、復興大学が始まり、大地震、大震災に関する調査、研究、活動等の多様な講義が行われていました。現在は東北工大の地域未来学を受け継がれています。今年は7月から12月迄オンライン形式で、「未来構築」と「防災・減災」2つの分野の科目で講座が進められています。

今回は日野教授の講義を聴講しました。11年前の地震は多くの人には想定外だったと思います。プレート境界型地震についてはその後の調査研究等により地震の解明や理解も深まってきています。講師は震災後、その成果を本講座等で継続して解説されています。

3月11日の本震前に1ヶ月前と2ヶ月前にゆっくりとしたすべりによる地震があり、2日前の9日には最大前震(M7.3)が発生しています。前兆現象のメカニズムもわかってきており、前震と本震の連続性は余効すべりに原因あるそうです。最大前震の後、ゆっくりとしたすべり「余効すべり」が未破壊の断層を刺激し、11日の本震を引き起こしました。地殻が表層部は弾性体、内部は粘弾性体という性質をもっており、地震後、地殻内部の変形が長期にわたって続く粘弾性体緩和のために余効すべりが起こります。11年前の地震後も東北地方の沖合南部では余効すべりが卓越しているそうです。

11年前の巨大地震は平均発生間隔550～600年、M9程度の地震と評価されています。宮城県沖ではM7.5級の地震が約38年周期で発生しています。この繰り返すにより、すべり面に「すべり残し」が累積され、その結果、約600年間隔の巨大地震が引き起こされます。869年の貞観地震、1454年の享徳地震そして2011年の地震が比定されています。従って、当面はこの規模の地震の発生はほぼないのでしょう。ただ、周期の短い宮城県沖地震はリセットされて新しいサイクルに入っていると考えられ、今後30年以内の発生確率は50%と高く、余効すべり等の影響でさらに高くなる可能性もあります。

講義の後半では津波の予報関係について解説がありました。地震速報でも津波速報にしても迅速で正確な予測に向けてさらに進歩を期待したいものです。

日本海溝沿いの東北沿岸地域は、M7級で30年以内に高い確率をもつ地震が多く想定されています。今年3月16日のM7.4、震度6強の地震は記憶に新しいところです。この地震ではわが家の近所の建物にも11年前の地震以来の被害が散見されました。

1978年の宮城県沖地震も2011年の巨大地震も宮城県内在住時に体験している者とはいえ、一方で慣れからか、鈍感さでもです。緊張感を持続させることは難しいことですが、折に触れて気づきの機会を持つことが必要なのでしょうか。

(仙台市 島田昭一)

「まなびのめ」配色法：藍色目(かさねのいろめ)  
第59号・冬／「枯色」(kare-iro)

参加体験記

## 参加体験記募集中!

読者の皆様に参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。掲載採用させていただいた方のうち毎月1名様は1000円分の図書カードを進呈! ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント!

※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。  
「まなびのめ」編集部へはがき、FAX、E-mail、Web 版投稿フォームよりお送りください。

第58号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第58号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

- Q.1 平田先生が監修したロボットのことが分かる入門書のタイトルは? 答え「絵でわかるロボットのしくみ」
  - Q.2 競技会で好成绩を取っている石巻専修大学の公認サークルの名称は? 答え「ロボット研究会」
- 今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から抽選で3名様に図書カードが当たりますので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

読者の声

# Voice Park

読者と編集部  
のキャッチボール

第58号 ロボット

学術的な話題を分かりやすく丁寧に説明してくれ親近感が湧きます。(仙台市泉区・70歳)

編：一見遠い存在の「学術の世界」ですが、実は身近なものということが伝わるように、これからも努めてまいります。

これからの時代はロボットやAIが人以上に活躍する時代だと思えます。人間が出来ないことをロボットがやり、ロボットが出来ないことを人間がする。少しでも生きやすい時代が来ればいいなと思えます。(仙台市若林区・30歳)

編：悪用されることなく、我々一般市民のためであり、困っている方々の生活に役立つ技術の発展であるように関心の目を向けていきましょう。

「何でロボット?」と思いましたが、今はスマホ、車、家電等、日常の製品にシステムとして組み込まれて気づかないうちに助けられているのだな、と思いました。(仙台市太白区・57歳)

編：人型ロボットのイメージが強いため、まだまだ未来のことかなと思っておりましたが、意外と身近に存在しているものでしたね。

ロボットを科学・工学的な視点ではなく、よりよい介護・福祉とは何かという視点で考えていると感じました。「よりそうロボット」ですね。(仙台市若林区・40歳)

編：「よりそうロボット」いいフレーズですね。そういう開発ができるのも、市民に「よりそう研究者」がいるからこそ、と今回の取材を通じて感じました。

毎号楽しく拝読しております。「まなび」の情報が丁寧に記載されており、とても参考になります。生涯学習の必要性を実感しており、今後ともよろしく願いいたします。(東松島市・61歳)

編：ご愛読ありがとうございます。多くの市民の皆様への「生涯学習」に役立つ「まなびのめ」を、これからもお届けできるように努めます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

その他すべてのお便りと編集部コメントはWeb版でご覧いただけます。

## 宮城県内の震災伝承施設

内容は施設等のWebページから引用しています(2022年12月)。開館状況など最新情報をお確かめの上、ご利用ください。

南三陸311メモリアル(道の駅さんさん南三陸内)  
〒986-0752 宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町200番地1  
開館時間：9:00～17:00  
休館日：毎週火曜日、年末年始(12/29～1/3)

「東日本大震災の伝承施設「南三陸311メモリアル」は、無料ゾーンと有料ゾーンに分かれており、有料ゾーンに関しては地域住民の声を集めた映像から学ぶラーニングプログラムや現代アーティスト、クリスチャン・ボルタンスキーの作品等を用意しております。展望デッキや浅田政志が地域住民と共に作った作品などは無料ゾーンにて楽しんで頂きます。」

入場料：※ラーニングシアターで選択したプログラムの所用時間に合わせて入場料を設定しています。  
<レギュラー> 一般1,000円 高校生800円 小学生・中学生500円  
<ショート> 一般600円 高校生500円 小学生・中学生300円



これからの主な「学び」イベント

詳細はWeb版に掲載しております。http://manabinome.com/

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

2 FEB  
考古学講座—旧石器時代を探る—第1回

2月11日(土・祝)

「旧石器時代研究最前線」(オンライン併用)

13:30▶15:00

無料 要申込

講師 森先一貴氏(東京大学大学院人文社会系研究科准教授)

※入館料が必要 申込締切 1月28日(土)

場所 地底の森ミュージアム研修室 定員 会場:40名 オンライン:80名

主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153

講座「仙台の公共交通の歴史と課題」

2月11日(土・祝)

13:30▶15:00

無料 要申込

講師 徳永幸之氏(宮城大学事業構想学群教授) 申込締切 2月3日(金)

場所 仙台市歴史民俗資料館(2階体験学習室) 定員 20名

主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956

「知っておきたいサバイバル術  
～火おこし体験と空き缶ごはん～」

2月18日(土)

10:00▶13:00

有料 要申込

場所 荒浜のめくキッチン・イベントスペース(仙台市若林区荒浜) 定員 15名(先着)

主催者 せんだい3.11メモリアル交流館 問合せ TEL 022-390-9022

れきはく講座 第3回  
「みやぎの復興と発掘調査」

2月18日(土)

13:30▶15:00

無料 要申込

講師 千葉直樹氏(東北歴史博物館学芸職員)

場所 東北歴史博物館3階講堂 定員 145名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

写真展  
仙台コレクション関連イベント：  
朗読 仙台をよむ

2月23日(木・祝)

14:00▶16:00

有料 要申込

講師 前田有作氏(俳優・演出家、NPO法人日本演劇行動療法協会理事長)

場所 仙台文学館 定員 20名

主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

市民公開講座 No.564  
「映像編集について～映画創生～」  
(オンライン)

2月24日(金)

18:00▶19:15

無料 要申込

講師 猿渡学氏(東北工業大学経営コミュニケーション学科教授)

場所 オンライン開講(zoom) 申込締切 2月23日(木)

主催者 東北工業大学地域連携センター 問合せ TEL 022-305-3810

れきはく講座 第4回  
「東北地方の古墳づくり」

2月25日(土)

13:30▶15:00

無料 要申込

講師 山口貴久氏(東北歴史博物館学芸職員)

場所 東北歴史博物館3階講堂 定員 145名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

せんだい文学塾<2月講座>

2月25日(土)

16:00▶18:00

有料 要申込

講師 熊谷達也氏(直木賞作家)

場所 仙台文学館 定員 60名

主催者 せんだい文学塾 問合せ sendaibungakujuku@gmail.com

3 MAR  
れきはく講座 第5回  
「東北先史社会の石の利用」

3月4日(土)

13:30▶15:00

無料 要申込

講師 小野章太郎氏(東北歴史博物館学芸職員)

場所 東北歴史博物館3階講堂 定員 145名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

仙台文学館ゼミナール2022：  
小池光短歌講座 第150回

3月4日(土)

13:30▶15:40

有料 要申込

講師 小池光氏(歌人) 申込締切 2月10日(金)

場所 仙台文学館 定員 60名

主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020